

大阪の都心再生に深く関わっている。とりわけ強い意志を持って、府や市の担当者とともに、河川空間の美観の創出に取り組んできた。

気候の良い時期に、ぜひ中之島公園に向いて欲しい。薔薇や桜が咲き誇る両岸に、水際に席を用意した洒落たレストランが増えたことに気がつくだろう。船着き場も増えた。夜にはLED照明で、堤防や橋梁が美しく照射されている。幸運であれば、民間企業の社会貢献による巨大なアヒルのアートに出会うことができるかも知れない。

「汚い」と自虐的に評価するほかなかった大阪の水辺に、かつてない美観が生まれている。ホームレスのブルーテントが川沿いを占拠していた数年前を思えば、見違えるはずだ。

この試みで私が重視したのは、都市基盤を再整備すると同時に、都市の物語を再生させる作業である。

かつて大阪はパリにたとえられた。水路が市街地を縦横に貫き、都心に象徴的な中洲と丘がある地勢に、そこを訪問した外国人たちが「華の都」との近似を見てとった。さらに明治三〇年代になって、大阪は「東洋のベニス」、すなわち「水の都」という冠を手にいれる。

この時、人々は過去に遡って「物語」を描き直した。近江・山城・丹波・大和など諸国の水を集めて海に注ぐ難波の地には、飛鳥や奈良の都の外港が置か

プロフィール
1960年大阪生まれ。京都大学工学部建築学科卒・大阪大学大学院工学研究科博士課程修了、建築史・都市文化論専攻。工学博士。大阪府立大学21世紀科学産学機構教授、大阪府立大学観光産業戦略研究所長。各地で市民参加型のまちづくりや地域ブランド創出を实践、都市に関する著作は数十冊。イベント学会副会長、大阪府文化振興会議会長などを兼務。



水の都 都市の「物語」を描き直す

橋爪 紳也

れる。大陸への使節も、この地から旅だった。やがて「徳川の平和」のもと、幾筋もの掘割を抜いて水を排し、湿地は商人たちが住む城下へと変貌を遂げる。水路を動脈として発展した都市は「天下の台所」と呼ばれる繁栄をみた。道頓堀の芝居茶屋街、淀川舟運や琴平参詣の客で賑わう旅館群、天保山などの行楽地など、運河沿いに独特の名所が点在した。そのすべてが「水の都」の物語に収斂する。

大阪は、西欧諸都市との比較のうえで、他律的に「水の都」という尊称を得た。しかし人々は、はるか古代にまで遡る風物や生業を、我が街の固有性に読み替える。結果、西欧諸都市の模倣ではない、独自の「水の都」の物語を描き直した。

しかし戦後の高度経済成長にあつて、汚染した水路に背を向けた大阪は「水の都」という美称を失う。市民の意識も生活も水辺と疎遠となり、結果として、かつての都市の物語や市民の誇りも忘れ去られた。

ようやく、新たな「水の都」の物語を描き直す時期が到来した。この数年、私が実践している美観の整備は、単なるハードの拡充ではない。あまりにも自虐的なわが街の語りを脱し、都市のブランド力を再生するとともに、シビック・プライド——すなわち「市民の誇り」を蘇生させる試みでもある。

月刊
みんな
1月号目次

- | | | | |
|----|--|----|---|
| 1 | エッセイ 千字文
水の都 都市の「物語」を描き直す 橋爪 紳也 | 12 | みんなく Information |
| 2 | 特集 辰
きれいなだけのアイドルなんて！
——聖ゲオルギオスの竜退治 菅瀬 晶子 | 14 | 地球ミュージアム紀行
グアテマラ——虐殺の記憶とコミュニティ再生の拠点
ラピナル・アチ・コミュニティ・ミュージアム
関 雄二 |
| 4 | 聖なる竜の復活
——女神・魔女復興運動とケルト文化 河西 瑛里子 | 15 | みんなく私の逸品
竜骨車
久保 正敏 |
| 6 | 龍女のため息 君島 久子 | 16 | 散策と思索の径
蠟人形は答えず
野林 厚志 |
| 7 | 弥生時代にきた龍 金関 恕 | 18 | 多文化をあきなう
商いが文化を育てる
鈴木 紀 |
| 8 | 龍と気候変動 安田 喜憲 | 20 | 歳時世相篇
新年が年に4回やってくる
関本 照夫 |
| 9 | 歌舞伎十八番『鳴神』と竜神 古井戸 秀夫 | 22 | フィールドで考える
大衆の所在——「真正なエジプト人」とは
相島 葉月 |
| 10 | 研究フォーラム
「梅棹アーカイブズ」の活用に向けて
堀田 あゆみ | 24 | 次号予告・編集後記 |